

管理会計論 基礎マスター

ミニテスト第14回 解答・解説

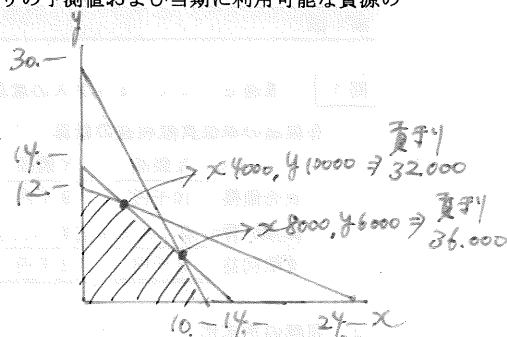
(第17回目実施)

[時間: 15分]

甲工場では、X製品とY製品を製造販売している。各製品1個あたりの予測値および当期に利用可能な資源の量は次の〔資料1〕のとおりである。

〔資料1〕

	X製品	Y製品	資源の利用可能量
販売価格(千円)	10	9	—
変動費(千円)	7	7	—
原材料(トン)	$1x + 1y =$		14,000
人員(人時)	$1x + 2y =$		24,000
機械(時間)	$3x + 1y =$		30,000



問1 甲工場における最も有利なセールス・ミックスを求め、そのときの貢献利益を計算しなさい。

乙工場ではS製品を製造販売しており、T材料を主要材料として用いている。当期におけるS製品およびT材料に関連する予測データは次の〔資料2〕のとおりである。

〔資料2〕

- S製品1単位の製造につきT材料8kgを投入している。なお、S製品の性質上、仕掛品は存在しない。
- S製品の当期における計画製造量は4,900単位である。
- 当工場では、製造に必要な分だけT材料を購入し、その期においてすべて投入している。
- T材料の購入価格は1,000円/kgである。
- T材料の発注1回当たりの費用は3,750円である。
- T材料の倉庫の年間減価償却費は800,000円である。
- T材料1kg当たりの年間保険料は50円である。
- T材料1kg当たりの年間保管費のなかに、T材料に対する投資額の10%（年利率）を資本コストとして計上する。

問2 乙工場におけるT材料の経済的発注量を計算しなさい。

